

10/18 SUN.

MUSASHINO ACADEMIA MUSICAE

Open Campus

信じ合い、響き合い、高め合う。

音楽総合学科 体験授業 11:00~12:00

作曲コース

「身近なテーマを音楽で表現してみよう」

小田 実結子 (作曲・音楽理論 講師)

例えば「雨」がテーマの音楽と一口に言っても、作曲家によってその描き方は様々です。彼らがどのような楽器・書法を使ってテーマを表現したのか分析し、自分ならどんな方法で作曲するか、アイデアを膨らませてみましょう。



音楽学コース

「音楽で「民族」を語る

— 19世紀チェコの「スラブの菩提樹」運動から考える民族主義と音楽 —

市川 克明 (音楽学 教授)

19世紀のヨーロッパでは、「自分たちは何者なのか」という民族意識が大きく高まりました。チェコでも、言葉や文学、音楽などを通して民族文化を育てようとする運動が広がります。本体験授業では、「スラブの菩提樹」運動を手がかりに、スメタナやドヴォルジャークの音楽を聴きながら、音楽がどのように民族を表現し、人々の意識と結びついたのかを考えます。

音楽教育コース

「音楽をどう教えるか — 授業づくりの工夫を学ぼう —」

中里 南子 (音楽教育 准教授)

音楽の先生になるためには、楽譜を読んだり演奏したりする力や知識だけでなく、生徒が音楽を感じ、理解できるよう導く力が大切です。ここでは、音楽科の学習内容に焦点をあて、学習指導要領での位置づけと授業づくりの工夫を紹介します。

アートマネジメントコース

「文化をひらくミュージアムの仕事 — 楽器で体験するアートマネジメント」

脇谷 真弓 (アートマネジメント 講師)

ミュージアムの視点から、日頃触れる機会の少ない民族楽器を文化として読み解き、展示を通して社会へ伝える学芸員の仕事を体験します。楽器を手がかりに文化をひらき、つなぐアートマネジメントの魅力に触れる授業です。